

令和7年度 幌西小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：21006

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇札幌市の共通指標の結果では、「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。」「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。」などの項目において、肯定的回答が比較的多いことから、学ぶ意欲や知的好奇心が強い傾向にあるといえる。 ◇「新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。」「振り返ったことを、次に生かそうとしている。」などの項目の評価が高いことから、子どもたちが学びの積み上げを実感していることがわかる。また、主体性の育ちが見られる。	◇札幌市の共通指標「自分の意見を進んで発言しようとしている。」の項目は低く、課題となっている。 ◇知識技能を活用しながら、自分の考えや思いを文章や言葉で書くことに苦手意識を感じる児童が多い。 ◇自分で計画を立てたり、見通しをもって学習したりすることに苦手意識を感じる児童が多いことも共通指標から見えてきた。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題

◇札幌市の共通指標「人の役に立ててうれしいと感じることがある。」「人の役に立つ人間になりたいと思う。」等の相互承認に関する項目において、肯定的な回答が多い傾向にある。一方で「自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。」「自分が必要とされていると感じる。」等の項目では、肯定的な回答をした児童の割合が少ないのも現状である。自己有用感を感じる児童が更に増えるよう、日頃から友達の話の聞き方や友達が話した後に周りの子がリアクションすることを大切にしながら、学習場面に限らず、様々な学校生活の中で、「相手意識」を育む指導を低学年から一貫して行っていく。自分の考えを相手に伝えることができる安心感のある学級風土や相手の話を聞くことで培われる相手意識を「学ぶ力」の基盤として、今後も大切にしていく。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

仲間とのつながりを大切にしながら、自ら前に進んでいく力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	◇『「自ら前に進んでいく子ども」の育成』の実現 「自ら前に進んでいく子ども」とは ・自分の目標をもって、それに向かって頑張れる子 ・自分の苦手を見付け、それに向かって頑張れる子 ・様々なことに興味をもち、自分の力でできることを増やしていける子 手立てとして ・自ら考えたいと思う課題設定 ・自分の意見をもつための教師の関わり ・自分の考えの質を高めるための協働・対話 ◇「自主学習」（家庭での学習）の取組 AARサイクル（計画→実行→振り返り） →「新しいことを自分で学ぶ力」（学び方）を身に付け、自分の人生を自分で動かしていく力へとつなげる。 →「与えられたこと」ではなく、「自分で選んで学ぶ」ことで、自分から行動する力（主体性）を育むことを目指していく。 学校での学習の延長線上に家庭での学習があるととらえる。	開校100周年を子どもの思いを大切にしながら進めていく。 低学年からの積み上げ。 低学年：一人一人がよりよい学級のために取り組める係活動 中学年：学年集会など、学年を意識した活動 高学年：委員会活動での取組 ◇全校共通の生活のめあて【AAA】の取組の推進 →A（あるく）A（あいさつ）A（ありがとう）の徹底 ◇KLP（健康ライオンプロジェクト）の取組の充実 →積極的に体を動かし、自身の伸びが実感できる場の設定 等

〈本プログラムの実行に向けて〉

新年度

- ◇ 本プログラム共有
- ◇ 職員会議
- ◇ 学校教育説明会・学年懇談
- ◇ パートナー校間研修

〔一人一人の教職員〕

- ◇ 日常の授業・教育活動
- テーマの設定・実行・振り返り
- ◇ 各自の研修（札幌教研・年次研修）

〔学校全体〕

- ◇ 日常実践交流
- ◇ 実践公開授業
- ◇ 校内研修

次年度へ

- ◇ 学校評価での成果と課題の共有・検証
- ◇ 校内研修結果共有